

各部・支所・課、機関の長 殿

市 長

## 令和 6 年度予算編成方針について（通知）

### 1 国の動向

内閣府が発表した 8 月の月例経済報告では、景気認識を示す基調判断を「景気は、緩やかに回復している。」としており、「先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある」としている。

これを受けた国の政策の基本的態度は、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」に基づき、30 年ぶりとなる高い水準の賃上げ、企業部門における高い投資意欲などの前向きな動きをさらに力強く拡大すべく、未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現に向けた新しい資本主義の取組を加速させるとしている。

令和 6 年度予算の概算要求の基本的な方針は、「経済財政運営と改革の基本方針 2023」、「経済財政運営と改革の基本方針 2022」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2021」に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する。ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない。歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化することとしている。

### 2 本市の状況

本市の普通会計における令和 4 年度決算の歳入総額は、612 億 8,411 万 2 千円、歳出総額は、575 億 3,060 万 9 千円であり、実質収支は、33 億 862 万 2 千円の黒字となり、実質単年度収支も、3 億 3,544 万 5 千円の黒字となった。なお、財政調整基金の令和 4 年度末残高は、80 億 5,930 万 3 千円で 1 億円程減少した。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率では、91.3%と前年度から 4.6 ポイント上がっており、適正な水準とされる 70%~80%程度より高く、依然として財政構造の硬直化が続いている。

また、少子・高齢化に伴う社会保障関係経費、公共施設の維持管理経費など、経常的経費が年々増加している状況であることから、健全で持続可能な財政構造を確立するためには、より一層の効率的・効果的な行財政運営に努める必要がある。

### 3 本市の予算編成方針

令和6年度の予算編成においても引き続き、「第2次薩摩川内市総合計画」、「未来創生10ビジョン」及び「アフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望」の着実な進展を図るとともに、社会の動向や行政ニーズを的確に捉え、新たな行政課題の解決に積極的に取り組む。

また、持続可能で魅力的なまちづくりを目指す「薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言」及び「薩摩川内市SDGs未来都市計画」の趣旨を踏まえた取組を推進する。

併せて、子ども・子育て支援、産業人材確保、移住・定住促進、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、ふるさと納税の取組も推進する。

いずれも、令和7年度を始期とする「第3次薩摩川内市総合計画前期基本計画」を見据え、「実施計画」の試行的策定を行い、向こう3年間で達成すべき具体的な事務・事業を明確化するものである。

一方、今後も厳しい財政状況が見込まれる中、限られた財源を有効に活用するため、全ての事業の効果や成果を厳しく検証し、事業の廃止・休止など積極的な見直しやスクラップ・アンド・ビルドにより、新たな施策展開のための財源を確保するとともに、あらゆる財源の確保に努め、中期財政運営指針に基づき健全で持続可能な財政基盤を堅持する。

なお、この方針に定めるもののほか、予算編成の基本的な考え方や要求要領等については、別途示すこととする。